

平成29年7月（第8回）教育委員会会議議事録

1. 開催の日時及び場所

平成29年7月31日（月）17:00～18:20

宇部市港町庁舎 3階会議室

2. 出席委員の氏名

野口 政吾 教育長

水田 和江 委員

三原 節子 委員

田村賢二郎 委員

山野あい子 委員

3. その他議場に出席した者

床本総務課長、網本学校教育課長、森田学校教育課長同格、小林総務課長補佐

4. 傍聴者 なし

5. 趣 旨

教 育 長： ただいまから、平成29年7月31日の第8回教育委員会会議を開催いたします。

本日は、4人の委員全員の出席がありますので、会議として成立していることを最初に報告します。

また、本日の傍聴の申し出はありませんでした。

教 育 長： 次に、本日の会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録署名人は三原委員にお願いします。

教 育 長： 「議案第32号 宇部市立小学校教科書「特別の教科道徳」採択について」の一件となっていますので、事務局からお願いします。

事 務 局： 本日の会議の進め方について説明します。道徳の教科書選定について、第2回教科書選定委員会における報告や、協議を踏まえ、この場における十分な審議を通して、採択する教科書を決定していただくこととなります。

また、教科書展示会が、7月26日まで実施され、その意見については、既にお渡ししたとおりです。

教 育 長： それでは、只今説明がありましたとおり、これまで2回の選定委員会を経て、本日、教科書を1社に決定することとなります。先日行われました第2回宇部市教科書選定委員会では、それぞれの教科書の特徴の説明を受けて協議を行い、委員の皆さんの意見も固まってきたのではないかと思います。

まず、委員の皆さんからこれまでの審議、協議等踏まえて、良いと思われるものを1社に絞らず上げていただきたいと思います。その後全員の協議で絞っていったらと思いますがよろしいでしょうか。

（全委員異議なし）

教 育 長： それでは、お願いします。

委 員： 結論から言いますと、総合的には、光村図書出版が良いと思います。どれが完璧というわけでなく、他の会社にも、この教材は良いというものがあります

が、全体を通して読んで、じっくりするのが光村図書出版かなと思いました。特に、インターネットやSNSに関することをよく説明していました。他の教科書では、自分がスマートフォンを持っている前提の話が、多かったように思います。小学校でスマートフォンを持つのが当たり前という風潮が、そこで生まれてしまうのは避けたいと思います。その点、光村図書出版では、小学6年生のスマートフォンの事例がでてきますが、それは中学生の姉が持っていて、そこで失敗した例が紹介されていて、適切な配慮がされていると感じました。また、ノートの有無について、私は、無い方が良いのではないかと思います。日本文教出版がノート付では良いと思いますが、ノートは自分で作るほうが、良いのではないかと思います。サイズもあえて小さいほうが、良いのではないかと思います、そう判断しました。

委員： 見る度に判断が変わってしまうところがありますが、ノートが無いものでは、光文書院が良いと思いますし、ノートが付いているものであれば、日本文教出版が良いと思います。光文書院の良いところは、最初に道德の時間について、四つの分野ではっきり分かりやすく説明があって、家や、学校や、地域での場面が、各学年のレベルに合わせて記載され、大きなテーマとして、「あなたはどんな自分になりたいですか」が、全学年に書かれていて、道德がどのようなことを学ぶのかが分かりやすくなっています。学研は、全ての学年に「今の自分を見つめよう」というのがあって、今の自分を書くというところが良いと思いました。ただ、どちらかというところ、なりたい自分を考えるという光文書院の方が、良いのかなと思いました。教材については、どの会社も良い教材を揃えていると思いますが、光村図書出版は、教材の力があって、読み応えがありますが、国語の教科書との違いというか、これで道德を勉強するということが、分かりにくいと感じました。「かぼちやのつる」で比較すると、光村図書出版は、文があって、挿絵が少しで、国語的なのかなと思います。他の会社では、文と絵が対応していて、読み取り能力の弱い子であっても、入りやすいと思います。光村図書出版の教材は良いと思いますが、読み取り能力が弱い子どもには、取りかかりにくいのではないのでしょうか。学校図書は、分冊になっていて、どちらが教科書でどちらが補助なのかが分かりにくいと思います。

委員： どの会社もよく考えられていると思いますが、若い教員とベテランの教員が扱うとどうなるかについても考えました。まずノートが付いているものであれば、日本文教出版が使いやすいと思いました。ノートが付いていないものであれば、光文書院が誰でも使いやすいのではないかと思う反面、文章の下に、発問が書いてあって、これは無い方が良かったのではないと思いますが、使いやすいのか、邪魔になるのか、子どもにとっての影響がよく分からなかったのも、大変悩みました。1年生の始めで考えると、子どもたちが余計なことを考えないで素直に入っていけるという点で、学研が良いと思いました。光村図書出版は、教材がとても良いのですが、1時間の授業で、どのように組み立てるかということを見ると、ベテランの教員には素晴らしい教材になると思いますが、若い教員には、少し扱いにくいのではないかと思います。

委員： 道徳の指導要領を見まして、一番大事なことは主体性を持つということで、道徳の中で学ばせようとしていることは、良い事か悪いことかを教え込むことではなくて、自分で主体的に考えることが大事であると、総括的に読み取りました。子どもたちが主体的に考えられるという点と、本市の「学び合い」はとても合っていると感じました。そこで各社の編集方針を見ると、自分達で考えたり、対話的な学習をしていきたいと思いますと出てくるのは、東京書籍、学校図書、光村図書出版、日本文教出版、光文書院です。その他の会社は、内容的に悪いわけではありませんが、まず善悪の結論があって、子どもたちにとっては、善悪があったほうが分かりやすいかもしれませんが、道徳の指導要領と、本市の「学び合い」の点から、そぐわないように思います。次に、2分冊になっているものは、教員の自由度が低いように思います。そうすると、東京書籍、光村図書出版、光文書院になりますが、最初に読んだときは、光文書院が一番考える、まとめるというところを整理して子どもたちに提示しやすいと思いましたが、教材として、善悪の結論があるような気がしました。光村図書出版は読み物になっているという意見もありましたが、世界人権宣言について、資料として付いているところもありますが、きちんと取り上げているのは光村図書出版だけだったと思います。難しい部分もありますが、人権について自分達で考えられるようになっておかないといけないと思いますので、光村図書出版が良いと思います。教育出版は良い所もありますが、ロールプレイがあるので、子どもたちにとっては、難しいのではないかと思います。

教育長： 光村図書出版は国語的といわれますが、よく読むと自分のこととして考えられるような、無理のない教材が配置されていると感じました。色々工夫もあって好感を持ちました。選定委員会でも、力強い教材という表現がありました。日本文教出版は、構成が現在の子どもに合っているように思います。賛否が分かれるノートについては、一度使ってみてはどうかという思いはあります。光文書院は、オーソドックスで流れが明確になっていると思います。見て分かりやすいし、欄外の発問も子どもたちにとって、良い面もあると思います。

教育長： それぞれ御意見をいただきましたが、これから収斂する方向で進めたいと思います。多くの方が候補に上げられたのは、光村図書出版、日本文教出版、光文書院であったと思いますが、このなかから絞っていくということによろしいでしょうか。

(全委員異議なし)

教育長： まず、意見が分かれている分冊について、検討したいと思います。私はあったほうが良いと考えていますが、あれば工夫の余地が無いという意見もありましたが、これについて、ご意見をお願いします。

委員： ノートがあっても、使わなくて良いということはいえないのでしょうか。

教育長： それは難しいと思います。

委員： 私は望ましくないと思います。

委員： 子どもの立場とすれば、筋道が分かりやすいほうが安心だと思います。行間を読めない子にとっても親切だと思います。評価をするに当たって、一つの基

準になると思います。

委員： 最初、教員の自由度がなくなるという点で、分冊は好ましくないと思っていましたが、どの教員でも教えやすいとは思いますが。

委員： 分量が決まっているところに問題があると思います。子どもたちが話をまとめながら、必要なことを、分量を気にせずに書ける力が6年生には欲しいと思います。

教育長： 内容についての御意見をお願いします。

委員： マザーテレサの顔が、絵になっているものがありました。写真でないと、本当の事は伝わってこないと思います。光文書院と光村図書出版は、写真が載っています。オブラートに包むのではなく、本物を伝える必要があると思います。そういう意味で、光村図書出版が一番良いと思います。

委員： 道徳が初めての教科化ということで、最初は分かりやすい光文書院が良いと思います。次の改定はいつになるのでしょうか。

事務局： 2年後の、他の教科の改定とあわせるのではないかとされています。

委員： 「泣いた赤鬼」が、光文書院では3年生、光村図書出版では、4年生で出てきますが、光村図書出版は少し遅いなと思いましたが、最後に友達との関係について考えてみましょうということで、他の本も紹介されていて、より広がりがあるように感じました。

委員： 使いやすさ等は、光文書院も良いと思いますが、教材の内容から光村図書出版が良いと思います。

委員： まず、道徳を好きになって欲しいということで、今の子ども達の心をひきつけそうな光文書院が良いと思います。高学年には少し物足りないかもしれませんが、そのあたりは、教員が補えるのではないのでしょうか。

委員： 内容は、光村図書出版も素晴らしいと思いますが、道徳の授業について、多様な方法で取り組める光文書院が良いと思います。

委員： 子どもたちの学びやすさは、教材の難易度ではなく、広がりがあること、色々な考えを取り入れられるということから、光村図書出版が良いと思います。

教育長： 初めての教科化ということで、使いやすさを重視して、光文書院が良いと思います。

委員： 光村図書出版の表紙はとても良いと思いますが、初めての選定ということで、使いやすさを確かめる点から光文書院が良いと思います。

教育長： 色々なご意見をいただきましたが、皆様のご意見を総合して、光文書院を採択するとしてよろしいでしょうか。

(全委員異議なし)

教育長： 異議がないようですので、道徳の教科書は光文書院を採択します。

続いて、事務局から何かありますか。

事務局： 一般図書について説明いたします。特別支援学級で使用される本(一般図書)についてもこれから採択していく必要があります。

4年に一度採択する検定本とは異なり、特別支援学級で使用される図書については、児童生徒の障がいの程度に応じて採択する必要があることから、毎年

度採択をしているところです。

また、その採択については、文部科学省、県及び市が作成する一覧表の中から供給可能な図書を、学校と協議のうえ採択することとなります。来年度の選定について、一覧表以外から選択する場合には、教育委員会会議に諮ることとなります。次回の教育委員会会議には、どのような一般図書が申請されたかをご紹介し承認をお願いします。

教 育 長： 他に何かありますか。

(全委員意見なし)

教 育 長： 以上をもちまして、本日の教育委員会会議を閉会とします。